

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501297		
法人名	株式会社 システム通信		
事業所名	グループホーム「和」みずもと		
所在地	室蘭市水元町53-12		
自己評価作成日	平成24年2月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
<http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173501297&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりに合わせた支援
 ご本人の意思を大切に人としての支援を行い、自立支援に向け見守り、残存機能の維持に努めている

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成24年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成18年に設立されたグループホーム「和」みずもとは、室蘭市の大学や専門学校などにほど近い閑静な住宅街に位置する。和風の建物と設えは落ち着いた雰囲気があり、利用者同士の和やかな日常と、地域との調和のとれた生活を、職員が一丸となって支えている。除雪のために導入した小型重機は、地域の除雪にも活躍し、近隣と協力し支えあう関係となっている。近所からの差し入れやボランティアの来訪、学生の職場体験の受け入れとともに、認知症サポーター・キャラバンメイトの資格を持つ管理者が、地域に対し認知症ケアの知識を伝え、地域とともに利用者を支える関係の構築を行っている。事業所を運営する法人は、職員の資質向上と職場環境の整備に力を入れている。専門性の高いケアが利用者の自立を支え、生活歴や個別の趣味などの継続を尊重し楽しみのある毎日となるように取り組んでいる。事業所では外出行事に力を入れており、豊かな四季を感じられるような企画や、利用者の好みを取り入れ、回転寿司に出かけるなど様々な取り組みを行っている。また、その様子を写真に収め、家族に個別の近況や健康状態の報告とともに毎月送付している。

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念にも地域密着を盛り込み、朝礼時唱和し念頭に置き、日々実践に取り組んでいる	開設時に職員と法人代表が目指す事業所の姿を理念に込め、後に地域密着型としての方向性を加えている。職員は唱和し確認しながら毎日のケアに当たっている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭り、文化祭、盆踊りに参加お祭りの出店、文化祭への出品物は早い段階で作成 又、雪かき、草刈、公園整備等の参加も行っている	利用者が神社の祭りや、聾唖学校の運動会の見学に出かけている。また、町内会の文化祭に利用者の作品を出品するなど、利用者が地域の一員と感ぜられる場を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会広報部、町会だよりにてホーム紹介、又オレンジメイト実施予定を町内会長と共に検討中		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催 今年度3回目よりホーム内にて実施 現状報告、要望等を聞きサービスの向上に努めている	運営推進会議は定期的開催され、案内や議事録も家族に送付している。会議の開催時間を変更するなど多くの参加者を得られるよう工夫を行っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議参加していただき、現状の把握と共に、助言等を受け連携の強化に努めている	室蘭市との相互の働きかけを行い、事業所が出向いたり市の担当が訪れたりしながら協働して利用者の生活の向上と行政や地域との関係作りを行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修参加 玄関の施錠は夜間のみ 日中はセンサー使用 外出(散歩等)は職員同行している	定期的に職員が外部研修に参加できるようにしている。マニュアルを作成し、外部研修の伝達や、日常のケアに当てはめて理解が深まるようにしている。散歩や外出の希望にはできるだけ添うようにし、言葉での拘束もしないよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加 日頃より職員間でのコミュニケーションを充実させ情報の共有計り、防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数年前に家族の方より相談があり後見制度を学び活用したことがある		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、契約書に基づき説明を行い、理解、納得を図っている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し苦情、要望をいただける様している	家族からの意見や要望があった場合は事業所内での改善に役立てるとともに、必要な場合は公的な制度の活用を含め、利用者の家族の意向を汲み取りながら支援している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の各ユニット会議 2ヶ月に1度の主任会議、代表参加、意見、提案を聞く機会があり、又個々の意見は随時対処、反映されている	法人代表が利用者の生活の様子の把握や会議への参加から職員とも接点を多く持っている。職員が意欲を持って働けるように、共に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	遣り甲斐が持てる様、研修への参加資格においての給与、退職金制度の加入 有給を取りやすい様、人員の増員に努めている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数、経験年数に応じ研修を受ける機会を確保 研修後、他職員と共にスキルアップのためトレーニングに努めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道グループホーム協議会、室蘭グループホーム連絡会、広域連絡会加入 研修及び交流会参加 他グループホーム訪問等によりサービスの質の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期の段階では、会話を増やし不安を軽減しつつ、要望を聞き出しながら身体状態を把握し、ケアプランへと繋げている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	キーパーソンとの連携を密にする事により要望や以前の生活ぶりを把握しよりよいケアが出来る様努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ること、出来ないことを見極め、配慮し、支援を行っている		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	手伝っていただける事はスタッフと一緒にやっている。調理の仕方、相談事も入居者の方々に聞いていただいたりしている 又、見守る事の大切さを念頭に置き実践している		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフよりの情報も密に伝え、何事も話し合える様、信頼関係を築き共に支えていける様、努めている		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつもホームを外に向かって開放し、お友達やご近所の方の来所を歓迎し、クラス会、囲碁、サークルなどの出席、参加等支援している	利用者の知人が訪問した際には、お茶や時間帯によっては食事を一緒に取るなど、自宅のようにもてなせるよう支援している。手紙や電話なども途切れないようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士互いに支え合い生活している 長い時間1人での時にはスタッフが声がけ又は見守りを行い支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と会った時は近況を聞いたり、入院された方については他人居者様受診時に面会に行ったり医師に現状を聞いたりしている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等行い、本人が安心して生活が送れる様、努めている	入居時のヒアリングやセンター方式のアセスメントを活用している。また、日々把握した意向も職員が共有し、支援につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを取り、本人の思いを聞き取り、家族の方々からの情報をいただいている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で職員全体で情報の交換、共有を図り現状確認、統一ケアを目指している		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、ケアプランを立て状況に応じ、家族の意見も取り入れ見直しをしている	介護計画は3か月ごとに評価し、見直しにつなげている。日々の記録も職員のアイデアを盛り込み工夫して記載している。	定期的な評価が介護計画の見直しに反映しないこともあり、計画の見直しの仕組み作りが必要となっている。利用者の多様な生活歴や生活への希望がこめられた計画が日々のケアに浸透する取組が期待される。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、体調記録、申し送りノート等を活用し、状況に合わせたケアを話し合い実践している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の入所施設への面会の支援、家族の自宅に会いに伺う支援なども行っている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の囲碁、踊り、手品、町会事業など本人の意思を確認し参加している		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人に合わせ対応、家族の希望も大切にしているが、歩行状態や病院によっては通院が困難になってきているのが現状 今後、訪問診療も取り入れる予定で家族の方の了承を得ている	利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診支援とともに、3月からは月2回の訪問診療も選択できるようになっている。職員が受診に付き添う場合は家族への報告は文章でも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告、連携を随時心がけ細かな変化も引継ぎを行っている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本情報の提示、ソーシャルワーカー、医師、看護師、ケアマネージャー、家族と共に連携を取り合っている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに関する指針あり 入居時説明行っても該当者なし	入居時に事業所としての方針を説明し、利用者と家族の希望を把握している。ターミナルケアの覚書を交わしている。職員の理解の浸透を図るため外部研修等にも参加を予定している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、普通救命講習 受講 ホームの急変時対応本があり		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練実施 地域住民と日々密接な関係を作り上げるよう努力しているも地震、水害等、不十分である	年2回の避難訓練は昼間想定で行っている。また、備蓄品についての検討を行い必要な物品を準備している。しかし、近隣への協力の要請はまだ行っていない。	検討されている夜間想定での避難訓練を実施し、課題の解決を進めることが必要である。また近隣に具体的な協力要請を行い、訓練の参加を呼び掛けるなど非常時の連携体制を構築することが求められる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様、1人ひとりに尊厳を念頭に声掛けに気を配りながら行うようにしている	利用者の意思を確認し促しを行ったり、相手に理解できるよう関わりを行いお互いに尊重した関係を築いている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意欲的に行動出来る様、努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせ希望に沿うよう努めている		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む物を着て頂いたり、身に付けて頂いている。又出張理美容師さんに来ていただき、カット、顔そり、眉毛切り、カラーリングなど本人の望む支援をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲での手伝いをして頂き共に食し、片付けを行っている	栄養バランスのとれた献立で、調理や片付けを利用者とともにしている。職員も共に和やかな食卓を囲んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を常に記録し1人ひとりの一日の状態が分かる様にしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後のケア、義歯の清潔に努めている		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりに合わせ支援を行っているがトイレ間隔が長い場合は声かけを行っている	おむつやリハビリパンツから布の下着へと自立に向かった利用者がいる。職員が知恵を出し合い、統一したケアで気持ちの良い排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分多く摂って頂いたり体操、運動、腹部温マッサージを行ったり薬を服用せず排泄出来る様、努力している		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に沿えていないのが現状であるが強制的では入浴希望の確認を取っている又、拒否が見られた場合でも時間をずらし声掛けを行っている	利用者ごとに週2回から3回くらいの入浴を午後の時間帯で支援している。利用者の生活歴なども取り入れ、それぞれの希望する時間帯にも対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペース、状況に合わせて休息睡眠出来る様配慮している 又、入床時アロマを取り入れるなど安眠に工夫をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を作成し用法等を把握 又、服用前に再々確認を行い、誤薬が無い様努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、食事準備等の手伝い、手芸品制作、ウエス切り、ゴミ箱、メモ帳作成など無理なく楽しみながら生活に取り入れ支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの外出は現状、病院受診後の買い物等、中々出来ない季節ごとにホーム全体で外出できる機会を増やしている	個別の外出支援や、以前住んでいた家を見に行きたいなどの要望に応じている。また、事業所のウッドデッキや畑、近隣の公園など、外気浴を兼ねて利用者が好きな場所へ行けるように支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時、スタッフと共に買い物に出かける事もあるが、あまり頻回ではない		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事前に御家族の方に連絡し、確認後、本人の希望通りに電話、手紙等のやり取りが出来る様支援している		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険回避工夫の為に家具等配置 テレビ音量、日差し等の配慮、季節を感じられる様、装飾の工夫、パネルヒーター、空気清浄器、加湿器使用し一定環境の整備に努めている	台所に隣接した食堂の他に置やカラオケスペースなど、利用者が好きな場所で過ごせるようにソファなどが設置されている。また、すぐ手に取れるところにほうきやちり取りが置いてあり、利用者も一緒に清潔な環境を整備している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室ではカラオケ、世間話、廊下のベンチにて過ごされたりしている		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、馴染みの物を持参していただく 写真、タンス、仏壇等	利用者が好きなものを飾ったり、使い慣れた家具や電化製品、仏壇などを持ち込み利用者それぞれの個性を発揮した居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとり出来る事は見守り、出来ない事のみ支援するよう心がけている		